

檜川村誌

現代編

／  
目次

伝統と谷を生かして 木曾・檜川村誌五 現代編

口 絵

刊行のことば

例 言

序章 現代檜川村の概観……………一

第一節 地域の概観……………三

一 檜川村の地理的性格……………三

檜川村の位置／檜川村の三つの地勢／寒冷で多雨の檜川村

二 檜川村と周辺地域とのつながり……………一五

かつては尾張藩、戦後は広域行政／ふえつつける村外地域への通勤者／比重をます都市部での就業／就業さは都市型産業だけでない／村に就業しなくなった若い世代／松本盆地の水源地檜川村

三 檜川村の空間構成……………二七

暮らしと集落の形態／典型的な高冷地の檜川村／集落と標高／檜川村の集落と地形／氾濫原上の集落／段丘上の集落／そのほかの地形／宿の集落 奈良井と贄川／奈良井

宿周辺 橋戸沢付近／奈良井宿周辺 営林署土場付近／奈良井宿周辺 権兵衛橋および権兵衛駐車場／贄川宿の中心地域／地場産業の集落 平沢／宮下地区の変貌／平沢対岸の旭町の変貌／交通路をひかえた桜沢・片平・若神子・桃岡の集落／交通路にそふ番所・楠・萱ヶ平集落／林業で生きてきた川入の集落と林業に「雇用される」人々／唯一の養魚場／農林業の不振とたたかい住民の去った桑崎集落／湖底に沈んだ曲淵・表塩水・奥塩水（上／原）／川入地区の人口と世帯の変遷	七九
第二節 檜川村の社会的概観……………	七九
一 村の人口の自然動態や社会動態など……………	七九
村の人口と世帯／一世帯あたりの人口と性比／出生数と死亡数／転入数と転出数／婚姻件数と離婚件数……………	七九
二 国勢調査からみた村の人口・世帯のうごき……………	九〇
現代の檜川村の人口と世帯／檜川村の性別年齢別人口構成／幼少人口・生産年齢人口および高齢人口／一五歳以上人口、未婚、有配偶など／学歴別一五歳以上人口／一五歳以上人口の労働力状態／就業者の従業上の地位／就業者の職業別のうごき／就業者の産業別のうごき／世帯人員別世帯数および世帯人口／家族類型別普通世帯数……………	九〇
三 集落の人口・世帯のうごき……………	一一九
地区の人口と世帯／各集落の世帯数と人口……………	一一九



## 第一章 檜川村政の展開と県政・国政とのかわり……………二一九

## 第一節 村政の民主化と展開……………二二一

## 一 敗戦・戦後改革と村民生活の復興……………二二二

市川・宮原村政と政治改革／村民の復興と海外からの引き揚げ／生活破壊と食糧対策  
 ・住宅事情／占領行政下のナトコ映画と農地改革／御料地の国有林への転換と村の産  
 業／六三制教育の成立と『檜川村報』の発行／第二期宮原村政と村民生活の復興／宮  
 原村政と第一次産業振興

## 二 福祉施策と広域行政・日中貿易のはじまり……………二六七

中村村政の開始と重点施策／国民健康保険の再開と町村合併問題／敬老年金の創始と  
 村の日中貿易／第二期中村村政と広域行政の開始／滝沢村政にみる産業振興策と広域  
 行政／昭和四十年度的「大ニュース」と村の過疎／第一期滝沢村政における仕上げ施  
 策／第二期滝沢村政の展開／桑崎の集団移住と木曾漆器祭の開催／第三期滝沢村政と  
 日中友好運動

## 三 文化行政の強化と村役場新築・奈良井ダム建設……………二四〇

自然保護・文化財保護と保育園の村営化／第四期滝沢村政と村役場の新築／奈良井宿  
 保存と第二次訪中団

## 四 村政の混乱・再建とあらたな展開……………二四五

滝沢村長の辞任と当選／手塚村政の発足と村役場のしくみ／村長批判と村議会のおこ

き／檜川村基本構想と村長不信任／百瀬村政の発足と経済の低成長／基本構想の具体化と諸施策／第二期百瀬村政と行政改革／檜川中学校の新築と村政百年にむけて／平成への展開と村政の継統

## 第二節 檜川村議会の議員選挙と運営……………二六〇

### 一 民主的村議会の成立・活動と常任委員会……………二六〇

敗戦前後の村会のうごきと村会議員／かさなる追加更正予算と村会議規則の制定／戦後初の村議会議員選挙と村民の生活／村民生活の復興と村議会の活動／産業振興方針と村議会の活動／『檜川村報』の再刊と村議会／第二回村議会議員選挙と村議会

### 二 議員の選挙と村議会活動の高揚……………二六六

第三回議員選挙と国民健康保険特別委員会／第四回選挙と村議会の展開／第五回選挙と村議会の運営／第六回議員選挙と桑崎移住、木曾郡への改称／第七回議員選挙と広域行政推進／第八回選挙と村役場の建設／村長の辞任・再選と第九回議員選挙／『ならかわ議会だより』の創刊と村長不信任可決／村議会の解散と第一〇回選挙／第一一回選挙と営林署の統廃合／第一二回選挙と立村百年／第一三回議員選挙と新村議会の発足

## 第三節 檜川村の財政……………三三〇

### 一 檜川村財政のあらまし……………三三〇

村財政とは／国・県の財政と村の財政／村財政の一般会計と特別会計／自主財源と依存財源／一般会計の歳入の概要／一般会計の歳出の概要／自主財源の村税と財産収入／村税の変遷／村財政の推移のあらまし



二	戦後の改革と檜川村の財政……………	三五八
	戦後の新しい村財政の理念／歳入と歳出にあらわれたしくみの変化／財源確保に先行した制度改革／戦争の傷をいやすに手いっぱい／教育費の負担しだいに重く／災害との闘いであった川入林道の開設／地方財政法の成立／シャープ勧告	
三	復興期・財政再建期と檜川村の財政……………	三七八
	村決算額の膨張／村財政の苦境と再建／開田事業・国民健康保険と水道布設事業／教育費にみられる村の特徴／高度成長期への橋渡しし三十五年度の特別事業	
四	経済の高度成長と檜川村財政……………	三八五
	歳入の構成と変化／歳出の構成と変化／公債費／民生費・衛生費／産業経済費・商工費・農林水産業費	
五	安定成長期の檜川村財政……………	三九二
	歳入の構成と変化／歳出の構成と変化	
六	村の大規模事業と村債中心の財源……………	三九五
	起債の手続き／起債はまず生活基盤の整備から／村の主体性がみえた昭和四十一年ごろの起債／石油危機から曲がり角にきた財政運営／大規模事業をささえた奈良井ダム	
七	檜川村における特別会計の変遷……………	四〇七
	継続する会計と閉鎖となる会計／繰入金が不可避の福祉事業	
八	檜川村財政の特徴と課題……………	四二二
	大役はたした財産収入／県下初の売上税創設反対意見書	

第四節 県政・国政の選挙と檜川村民	四一六
一 知事の選挙と檜川村民	四一六
県知事・県教育委員の選挙と県政・檜川村民／高度経済成長期以降の県知事選挙	
二 県議会議員選挙と檜川村民	四二五
西筑摩郡の県議会議員選挙と村民／木曾郡の県議会議員選挙と村民	
三 国政選挙と檜川村民	四二九
衆議院議員選挙と村民／参議院議員選挙と村民	
第五節 檜川村と広域行政	四四〇
一 広域行政のはじまりとひろがり	四四〇
高度経済成長と広域行政のはじまり／国による広域市町村圏の振興構想／一部事務組合からはじまった木曾郡の広域行政／木曾広域市町村圏と檜川村／広域行政が有効にはたらいいた村道改修／基盤整備に努力した木曾広域行政事務組合／一部事務組合の事業から総合的的事业へ	
二 広域圏の単位での未来を展望する木曾広域市町村圏計画	四五三
木曾地域広域市町村圏計画の策定／一部事務組合の事業と課題	
三 木曾郡ぐるみの地域おこし	四五八
拡大する広域行政／広域圏におけるふるさと事業推進	



第六節 奈良井ダムと村政	四七〇
一 ダムのあらまし	四七〇
ダムの目的／ロックフィル式ダムの構造／「松塩用水」とダム／ダムと土地利用の変 化	四七〇
二 ダムができるまで	四七八
はじめは発電にねらい／木曾北部三か村が県に調査をうながす／変化した目的と設計 ／水没地域の住民と財産／川入地区住民とダム／奈良井地区とダム対策／村民の意見 統一と村の将来構想／村にとってダムとはなにか／村の要望がまとまる／協定書の調 印できる	四七八
三 ダムの安全性をめぐる議論と推移	五〇八
村民の理解が不可欠／村民むけの解説冊子をつくる	五〇八
四 ダムと村政	五二四
ダム関連の収入と村の財政／檜川村振興計画	五二四
第七節 檜川村政と奈良井営林署	五二九
一 奈良井営林署の組織	五二九
営林署の設置まで／営林署の組織と管理運営／計画的な森林資源の育成と収穫／けわ しい地形 高い標高 きびしい気候／保安林の設定と面積の変化／保安林の位置	五二九
二 奈良井営林署の官行造林・林道と治山事業	五二九



官行造林の制度と実施／併用林道の設置と維持／溪間工と山腹工による治山事業	五三六
三 村政・村民と国有林	五三六

国有林事業と村民の雇用／奈良井営林署の廃止まで／国有林所在市町村交付金と檜川村／国有林材中心の木材引取税／村に貢献した国有林材の特売／広域行政による有効活用／森林組合の販売戦略と国有林

第二章 産業と経済	五五五
-----------	-----

第一節 檜川村の就業構造と労働力の状態	五五七
---------------------	-----

一 産業別就業者数の変化	五五七
--------------	-----

就業者はおよそ二三〇〇人／林業中心の第一次産業／若者は村に就業しない／木曾谷町村間の農業力の差／高い村の非農林漁業世帯率／木曾谷と檜川村の第二次産業／粗付加価値率の大きい村の工業／第三次産業とサービス業／村の産業別従業者数の特徴	五七〇
二 村内の事業所でのみた就業者分布	五七〇

全産業と製造業

第二節 漆器業	五七五
---------	-----

一 漆器業の概観	五七五
----------	-----

木曾平沢駅からの眺め／製品の特徴と変遷／曲物から指物 さらに板物へ／漆器業を飛躍させた鉄道／国の重要漆工団地となる／ユーズーへの直接販売で伸びた座卓／漆

の輸入途絶と日中友好運動／新展開への模索／基幹産業としての漆器業

二 原料・材料・技術……………五八六

漆器製品ができるまで／輸入に依存してきた原料漆／長崎国旗事件と波紋／木曾日中貿易の設立と漆の直輸入／むずかしい国産漆の供給／漆をめぐる五十年代の事情／木材供給と変化／木曾平沢漆器工業協同組合の誕生／木曾漆器工業協同組合への統合／木材木工部門の生産組織／地元の木地業者が存続する条件

三 製造……………六〇五

木曾漆器の特徴と製品構成の変遷／製造工程と工場間のつながり／漆器業に働く人々と職種／個人経営から法人経営へ／事業所の小規模化がすすむ／付加価値額からみた漆器業

四 販売……………六二八

漆器店の看板の意味／胸に一物、背中に荷物／独自の販売さきをもつ製造問屋／販売さきの内訳

五 団体……………六三七

漆器業に関係した諸団体／漆器工業協同組合／漆器労働組合／行政機関・諸団体と漆器業／どんぐり会・朱と黒の会など／全国漆器業者との連帯／住民レベルの日中友好運動／檜川村商工会

六 村政と漆器業……………六三八

村立木漆工芸指導所／素材転換のころも／融資による村の振興策／産業学校から高等漆芸学院へ／伝統的産業功労者など／木曾漆器館の建設



七 労働力……………六五五

労働力は縁故からも／依存する労働力のちがひ／従業者の年齢構成と後継者問題

第三節 檜川村の農業……………六六一

一 村農業の概観……………六六一

「農家」が米を買って食べる／意味のあった農業基盤整備事業

二 農地改革による諸変化……………六六四

農地改革のはじまり／約三七町歩が解放された／登記事務もすみやかにすすむ／御巢山開拓事業と中止

三 農業協同組合の再建と生産力向上への努力……………六六九

村農業協同組合の苦境と再建／困難だった経営立て直し／農作物の生産と村の消費量／積寒法の対象地域となる／穀物重視の昭和二十年代後半／換金作物・畜産指向の三十年代へ／農業構造改善事業／畜産と草地改良事業

四 生産基盤の整備……………六八七

災害復旧からはじまった基盤整備／寄与の大きかった山村振興法／生活センターの設置／防災と安全のための同報無線連絡施設

五 農業生産の変化……………六九三

観光とむすんだ野菜・果樹生産

六 農業の現状と課題……………六九五

村おこし事業と地域振興／ゼロからの出発／地域づくりのささえとして

第四節 檜川村の林業……………七〇一

一 村林業の概観と特徴……………七〇一

森林の樹種構成にみる特徴／比較的管理のよかった民有林／生産不振の私有林／広大な国有林／カラマツ中心の造林

二 戦前・戦後の林業……………七〇六

生産と生活のための林業／部落有林野の統一

三 国有林と檜川村……………七二〇

国有林と村民生活／官行造林地と国有林で働いた人々

四 私有林と林家・林業経営……………七二四

村政と林業／私有林の所有と経営／薪炭生産の残照／林業労働力の不足と高齢化／集落によって異なる林業の重要性

五 公有林の経営……………七三三

公有林経営の変化／村有林経営計画書の作成／造林事業と公有林整備事業債／労働力不足の発生／人件費中心の造林費

六 森林組合と林業の将来……………七三〇

森林組合の強化／森林組合の大型合併／順調に発足した木曾森林組合／林業の将来展望



第五節 檜川村の商業……………七三六

一 木曾郡内でみた檜川村の商業の特徴……………七三六

おい商業就業者とすくないサービス就業者／卸売り業の弱体な木曾谷の商業／日常生活への地道なサービス／よろずやの特徴のつよい食品類の商店

二 村民の買い物行動と商圏の変化……………七四三

買い物行動を分析した資料／商品によって異なる買い物圏／地元滞留率が低い品物／地元滞留率の長期的な推移

三 村の商店分布……………七五〇

幹線交通路とガソリンスタンド／奈良井宿のみやげ物店／漆器業は景観の構成要素／店舗をもつ漆器業者の類型／飲食店の分布と類型

四 村と商業振興策……………七五八

商業の生きのこり戦略／県の制度融資の活用／夏のイベント、商業祭／個々の商店の対応／健在なよろずやの営業

第六節 檜川村と観光業……………七六四

一 村の観光業の特色……………七六四

歴史的文化財と観光／観光資源の認識と対象の変化／宿場と漆器業重視の観光開発へ／ダム構想・道路改修と観光／自然遊歩道の整備／歴史・自然をむすぶ観光／自然と歴史の遊歩道

二 街道ぞいの文化財的観光資源……………七七六

桜沢から賛川まで／賛川宿から平沢へ／奈良井宿をめぐって

三 宿・町並みと観光資源……………七八四

奈良井宿保存の決定まで／宿保存事業の展望

四 観光業の現状と課題……………七九二

入り込み客数／観光客の受け入れ／民宿の背景／観光協会の設立と拡大／観光協会の  
事業と運営／イベントの柱 漆器祭と宿場祭／漆器祭・宿場祭の評価

第三章 家・世帯と各種社会集団……………八〇九

第一節 家と世帯……………八二一

一 檜川村の家と世帯……………八二一

家と世帯について／名字と集落／世帯の大きさ／各地区の年齢階級別人口／各地区の  
続柄別世帯員数／各地区の世帯主たちの続柄／各地区の世帯主の妻たちの出身地／各  
地区の家族類型別世帯数

二 檜川村の家と職業……………八三七

各地区の就業者数別世帯数／各地区の就業人口の性別年齢階級別構成／各地区の続柄  
別就業者数／各地区の年金受給者数別世帯数／各地区の続柄別年金受給者数／一家の  
財布の複数化／働く人々と所得源／各地区の主な所得形態別世帯数／家業経営から企  
業経営へ



第二節 各種社会集団……………八六一

一 社会集団……………八六一

社会集団とは

二 伝統的地域集団……………八六三

伝統的集団とは／集落および集落連合と氏神鎮守／信仰・祭儀関係の石造文化財の分  
布／石造文化財からみた贛川地区／石造文化財からみた奈良井・平沢地区／石造文化  
財分布のかたより／伝統的地域集団

三 社会的交流の結節機関……………八七九

社会的交流の結節機関とは／特別徴収義務者である事業所

第三節 社会圏……………八八六

一 人々の交流……………八八六

社会圏とはなにか

二 人々の日常的な出入り……………八八九

常住人口と昼間人口／通勤者と通学者／通勤者の動向／通学者の動向／どこへ通勤・  
通学していたのか／どこから通勤するのか

三 住民の所属変更をとまらう人々の出入り……………九〇四

檜川村への転入／都道府県別にみた転入者／県内市町村別にみた転入者／檜川村から  
の転出／都道府県別にみた転出者／県内市町村別にみた転出者／通勤・通学圏と転入

・ 転出圏／通勤・通学園、転入・転出圏と婚入圏	
第四節 現代の主婦の態度と意見	九三二
一 アンケート調査の実施	九三二
調査の目的と方法	
二 主婦の個人生活	九三三
結婚の重要性／高学歴化	
三 主婦の社会生活	九三四
勤めにてたきっかけ／主婦の勤めさき／主婦の職歴／各種団体への参加	
四 主婦の家庭生活	九三一
出産年齢の早まり／檜川村の家族／家計の構造／家の仕事／家事の役割分担／家の代 表者	
五 主婦の意見	九四七
暮らし向きの実感／勤めにてる目的／性別役割分業意識／三世代同居	
第四章 檜川村の村民生活	九五七
第一節 村の道路・交通・モータリゼーション	九五九



一	村と道路交通	九五九
	道路交通のあらまし／国道の改良整備／川入林道の建設／「不遇」な桑崎林道／県道がみじかい檜川村／村内道路の改修を支えた財産収入／困難だった村道改修の単独事業／三回の大きな転機／重点施策となった村内道路の新設と改良／国の地方道路政策の充実／ふえる道路関係費／村の道路の現況	
二	鉄道と駅の変化	九七七
	鉄道と村民の暮らし／ディーゼル列車の登場と電化／新鳥居トンネルの開通／すすむ電化と複線化工事／木曾平沢駅の移転と改築／貨物扱い集約化からの国鉄合理化／住民へのしわ寄せ許すな／国鉄の合理化と駅問題／駅合理化の最終段階／駅守る奈良井老人パワー	
三	バス交通・村営バスと自家用車の普及	九九三
	塩尻・奈良井間のバス交通／村営バス運行をはじめ／村営バスの高い利用頻度／自家用車の普及	
	<b>第二節 消防・防災</b>	九九九
一	消防団の結成・組織	九九九
	消防と防災のあらまし／消防組から警防団そして消防団へ／消防団条例・消防委員会条例・消防団規則	
二	消防団の運営と事業の変遷	一〇〇四
	組織再編と施設整備の充実／長期にわたる消防力の強化／三つの時期区分／機動力の向上と団員の減少／手不足はやはり脅威／ふえる交通事故と交通安全村宣言／木曾交	

通安全協会櫛川支部の誕生／村の対応

三 広域行政と消防事業 ..... 一〇〇

消防・防災の広域化のはじまり／国道改修と消防の広域化／救急以外の業務も広域体制に

四 災害とハザードマップ ..... 一〇四

村と奈良井川／村の災害発生予想区域

第三節 村の衛生・水 ..... 一〇八

一 健康と病氣と死 ..... 一〇八

病氣と健康／脳溢血から癌と心臓病へ／明確になった三大死因

二 国民健康保険事業と変遷 ..... 一〇三二

国保事業再開まで／事業の変遷と給付の充実／決算規模の推移と老人保健法の充実／村民税に匹敵する保険税／村の国保事業の展望

三 村政と衛生 ..... 一〇四九

生活空間を共有する／村の保健衛生事業の現状／事業の変遷

四 暮らしと水 ..... 一〇五七

水を得る苦心と努力／桜沢の飲料水・生活用水の確保／近世の宿場、贄川集落と水／街道筋の集落と水場／平沢集落と水／自力で建設・運営の平沢区水道／奈良井宿の文化財としての水場／防火用水を万全にした修理・修景事業／水場も修景事業の対象に



## 第四節 福祉・高齢化問題

／水道普及を容易にしたビニールパイプ／集落単位に整備された小型水道／村営水道事業の開始／水道布設に積極的な宮原村長／二十六年に平沢水道と奈良井水道竣工／水道整備が村政の中心課題に／区民の水道から村民の水道へ／貴重だった山林からの収入／経営の統合と安定給水が課題に／新橋川水道の完成／山の財産を支えに新水道を建設／古い給水施設に新しい水／凍みに弱い水道があらわになる／二度目の試練  
昭和四十九年二月の寒波襲来／借金と利子を支払った水道事業の台所

一〇八

### 一 復興と福祉

戦争の痛手をひきずって

一〇八

### 二 復興から高度成長と保育

三保育園（奈良井・平沢・贄川）できる／保育園の村営化が課題となる／乳幼児の医療費を村で負担／高度成長期、老人と幼児が社会福祉の柱に

一〇九

### 三 年金・医療と高齢者の福祉

心からモノ、そしてまた心へ……高齢者の福祉／国民年金支給対象者、支給額／老人福祉法と財政措置／老人福祉と医療費

一〇九

### 四 福祉のささえは村民の自主的な活動

自主的組織「栗々会」は平沢にまず誕生／村おこしをになって

一一〇

## 第五節 情報と通信

### 一 新聞・テレビの普及

一一四

新聞の普及と購読／映像の時代／公民館事業と映画／映画による檜川村からの発信／ 学校教育・社会教育のテレビ利用／テレビ難視聴地域の克服／テレビの普及率の推移	一一三
二 電話の普及と利用	一一三
電話普及の概観／公衆電話架設への努力／農村集団自動電話の導入／川入地区にも農 集電話／電話局の統合と自動化・単独電話への切り替え／ファクシミリの普及	一一三
第五章 教育と文化	一一三
第一節 檜川村の戦後教育のあゆみ	一一五
一 教育熱心な檜川村	一一五
財政支出のトップは教育費	一一五
二 昭和二十年代	一一六
占領下での民主化教育の開始／学校教育の断絶と連続／教育環境の整備と困難	一一六
三 昭和三十年代	一一二
学校教育の内容の充実	一一二
四 昭和四十年代	一一三
学校教育設備の充実／社会教育の必要性が高まる	一一三
五 昭和五十年代	一一五



社会教育の施設の充実／青少年健全育成事業／奈良井宿保存事業	二四九
六 昭和六十年代	二四九
学校の改築／生涯教育がさかんとする	二四九
七 財政からみた教育行政の課題の変遷	二五三
財政にみる教育行政	二五三
第二節 学校教育	二五六
一 新教育への対応	二五六
戦後の課題／GHQの占領政策／長野県での対応／新教育への教員の対応／国民学校から小学校へ―楢川小学校の場合／国民学校から小学校へ―賛川小学校の場合／楢川村での対応	二五六
二 楢川小学校と川入分校のあゆみ	二六四
楢川小学校川入分校／施設の整備がすすむ／教育内容の充実への努力／祖父母参観日とPTA／新校舎落成する	二六四
三 賛川小学校のあゆみ	二七〇
賛川小学校桑崎分室／施設の整備がすすむ／教育内容の充実への努力／PTA・祖父母・地区など	二七〇
四 楢川中学校のあゆみ	二七六
開校当初／学校経営軌道にのる／産業教育において注目される／スポーツがさかんな	二七六

中学校／新教育課程実施の前後	一一八
五 檜川村小学校給食センター	一一八
完全給食はじまる／新しい給食センター	一一八
六 保育園・小学校および中学校のまじわりなど	一二五
保育園と小学校／小学校と中学校／青年学校・定時制高等学校および産業学校	一二五
第三節 社会教育	一二〇
一 敗戦後の社会教育	一二〇
敗戦後の課題／敗戦後の檜川村の社会教育／ナトコ映画と新しい年中行事／施設の整備、青年学校および婦人学級／第一一回文化祭	一二〇
二 今日の社会教育	一二八
財政からみた社会教育	一二八
三 今日の公民館活動	一九九
本館・分館体制の再編成／婦人部の運営／地区館の運営	一九九
四 今日図書館活動	二二五
檜川村図書館／図書館の運営	二二五
五 今日社会体育	二三〇
村長杯争奪野球大会／早起き野球と壮年ソフトボール／檜川村総合運動場と檜川村体	二三〇



	育館／体育施設の利用と管理	二二二
	六 青少年健全育成事業	二二三
	社会の変化と青少年育成／スポーツ少年団／青少年健全育成事業	二二四
	七 まとめと展望	二二六
	第四節 文化財の指定と保護	二三八
一	この節においてとりあげること	二三八
二	檜川村の有形文化財	二三九
	文化財の調査と報告／おもな調査報告書／文化財の指定	二四〇
三	檜川村奈良井伝統的建造物群保存地区	二四七
	社会教育予算の変化／重要伝統的建造物群保存地区／保存への経過／保存事業	二四八
四	無形文化財	二六〇
	檜川村物産品評会／全国漆器展など／伝統工芸士／無形文化財	二六一
	第六章 檜川村の基本構想・基本計画	二六九
	第一節 全国総合開発計画と市町村の基本構想・基本計画	二七一
一	全国総合開発計画とコミュニティ構想	二七一

全国総合開発計画と市町村の基本構想・基本計画／コミュニティ／第三次全国総合開発計画とその後

第二節 『基本構想・基本計画』への檜川村の準備状況……………二七六

一 山村振興計画と広域市町村圏計画……………二七六

山村振興計画／木曾地域広域市町村圏計画

第三節 檜川村の『基本構想・基本計画』……………二八二

一 『基本構想・基本計画』の策定経過……………二八二

基本構想／策定作業の開始

二 『基本構想・基本計画』の策定状況……………二八四

策定状況／策定のための資料

三 『基本構想・基本計画』の策定作業……………二八五

策定作業の準備／策定作業が軌道にのる／木曾郡勢要覧／村づくりはみんなの手で／

『基本構想・基本計画』／『基本構想・基本計画』以後

現代史年表……………二八三

あとがき



執筆者名簿

檜川村誌編纂委員会委員名簿

檜川村誌編纂委員会事務局名簿

檜川村誌調査協力員名簿

序 章 現代檜川村の概観

表紙 奈良井宿中町 三沢博昭撮影